しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渇くことがありません。
わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

高松泉キリスト教会　ニュースレター

第 161 号（2023 年 6 月号）

いずみ

香川県高松市伏石町 2018-5
Tel & Fax 087-867-2302
http://izumichurch.holy.jp/
発行人　宮地　宏一

二年間、立派な葉っぱだけで、一つの実もつけなかったイチジクの木に実が実り始めました。少しずつ大きくなる実をながめながら、収穫の日を今か今かと待ちわびる日々。

先日、ニュースレターを配布中、受け取ってくださった方が「身体に気をつけてな」と労ってくださいました。それから数日後、教会からの帰り道、すれ違いざまに何とか聞き取れる声で、「お仕事、お疲れさま」と声をかけてくださる方がいたのです。お二人とも全く面識がありませんでしたが、とても温かな気持ちになりました。私も大げさにではなく、さりげなく、人を生かす、元気にする“ことば“をかけられたらと願っています。

今月も皆様とご家庭の上に、神さまからの恵みが豊かに注がれますように。　(2023.06.01)

あわれを知る

私は毎日、ニュースレターのネタを求め、新聞を隅から隅まで読んでいます。また周りで起こる出来事や会話の中にネタは落ちていないかと、アンテナを常に張り巡らしているのです。そんな中、一つの気づきが与えられました。それは切り取る記事、目にとまる出来事や印象に残る会話の多くが、今の自分を映し出しているということです。抱えている悩みであったり、解決できない問題であったり。これは全く意図していないことでした。無意識のうちに、取捨選択していたのです。

そして新聞の記事や出来事から浮き彫りにされた自らの問題・悩みに向き合い、文章を書いていきます。この作業は、かなり大変です。葛藤があります。自分の内側を明らかにするのは、簡単ではないのです。書いては消し、書いては消しの繰り返し。「もう全然書けない！今月は発行するのやめようかな？」と泣き言を言うこともあります。そうすると私思いの妻や子どもたちは「一回休んでも良いじゃない」とアドバイスをくれるのです。けれど、やめられません。それは書くことで、自分の心が整理され、誰よりも私自身が励まされ、心が癒やされるからです。

またニュースレターに共感してくださる方の存在は、私にとってとても大きいです。「分かるよ～そうだよね」「私も同じように考えていた」そんな声を聞くと、私の“あの傷”“苦々しい出来事”“辛い痛み”が少しずつ解かされていくのです。

さて作家の高樹のぶ子さんが最近、小町の和歌から着想した「小説小野小町　百夜」を刊行されました。高樹さんは小野小町の生き方を通して、人を愛することの難しさとその恵みについて次のように語っているのです。

小町は「あわれ」を知る歌人だった。あわれを知る、というのは、哀しみと優しさを知るということです。赦しを知る、とも言えるでしょうか。

･･･小町は（コンプレックスを抱えていますが）いじけることなく、コンプレックスを人への理解へ傾けていきます。（都で出会う人たちを）よくみるとみんな負い目を抱えている。立派に見えても、それぞれ哀しみを抱えている、あわれな存在だと小町は気づきます。･･･

全身全霊をかけて人を求めるからこそ、受け入れてもらえなかった時の痛みは大きいのでしょう。でもそうやって自分の痛みがわかると、他人の痛みもわかるようになりませんか。これが「あわれを知る」ということ。わたしが描いた小町も、困難な時代に、そうやって人生の深みを知りました。

小町は上京したあと、頼りにしていた人物から裏切られ、傷つきます。でも出会いと別れを経験したり、過去に引きずられる父親を見たりするうちに、赦しの境地に至ります。

【朝日新聞デジタル 2023.5.24「こころのはなし」より】

どんなに幸せそうに見えても、どんなに立派な格好をしていても、地位や名誉があっても、私たちは“あわれな”存在であると高樹さんは語ります。本当にそうだな～と思うのです。人前では何も問題がなさそうに振る舞いながら、実際は様々な問題・痛み・苦しみに押しつぶされそうです。

このように自分の痛みを知ることで、他人の痛みが分かるようになるはずですが、どうでしょうか。コンプレックスを抱え、「何で自分だけ」と卑屈になります。人に裏切られて傷つき、その傷が癒やされず、誰に対しても素直になれないのです。こんな私が「あわれを知る」者となるには、どうしたら良いのでしょうか。

聖書に登場する人たちは、特別に神様に愛され、多くの恵みが与えられています。ですが彼らもまた“あわれな”者たちでした。家族や自分のことで、様々な痛み、苦しみを抱えているのです。ヨセフという人も、そうでした。彼は父親から特別に愛されていたため、兄たちからねたまれます。そして無理やりエジプトに奴隷として売られてしまうのです。そのエジプトでも、苦しみは続きます。

主人の妻の策略によって投獄されたり、約束を破られたり。けれど彼は腐らず、自暴自棄にならなかったのです。しかも彼のやることなすことがみな成功します。これは彼の努力や忍耐によってというよりもむしろ、ヨセフとともに神様が常におられ、恵みを与えてくださったからに他なりません。そんなヨセフは最終的に、エジプトで No2 になるのです。

このように権力を持ったヨセフは、自分を苦しめた者たちに仕返しをしたでしょうか。困っている兄たちを見殺しにしたでしょうか。いいえ。彼は復讐されるのではないかと恐れる兄たちに「あなたがたは私に悪を謀りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとしてくださいました。それは今日のように、多くの人たちが生かされるためだったのです。ですから、もう恐れることはありません」と優しく語りかけ、完全に赦すのです。

このようにヨセフが「あわれを知る」者とされたのは、自分が意味もなく、苦しみ悩まされたのではない。神様の素晴らしい計画がそこには確かにあったのだと自分の痛みの意味を知ったからです。だからこそ恐れ惑う兄たちを憎むことなく、全面的に受け入れることができたのです。

同じように私たちの苦しみ・痛み・傷も、私たちにとって無意味ではありません。神様の素晴らしい計画がそこには必ずある。しかも神様はどんなときにも私たちを見捨てず、ともにいてくださり、確かな助けを与えてくださいます。このことを深く味わい知る中で、私たちは徐々に周りの人の痛みが分かり、「あわれを知る」者へと変えられることでしょう。

- 礼　　拝　　毎週日曜日 10：30～12：00
- 祈 祷 会　　毎週金曜日 10：30～12：00
- イズミン・キッズ　毎週日曜日　9：30～10：20
- おやこ de えほん　毎週水曜日 10：30～13：30
- Friendly English　毎週火曜日 16：00～18：10（小学生向け
  毎週木曜日 9：30～11：50（大人向け）